



ITシステムを強化したいけれど、人手や予算が足りない、相談相手がいない。
今あるお困りごとはもちろん、未来の課題解決まで視野に入れたIT環境の構築をお手伝いします。
日本全国に約400拠点を展開。躍進企業の強い味方は、皆さまのすぐそばに。
御社の社外ITスタッフ、それがNECフィールディングです。

ITで会社はもっと強くなる

企画、導入から運用、復旧まで、**NECフィールディング**
ITシステムをフルサポート

人と地球にやさしい情報社会へ

<http://www.fielding.co.jp>

データセンター特集

社会インフラとして注目集めるデータセンター

東日本大震災以降、ディザスターリカバリー（DR）用にデータをバックアップできるデータセンターを利用する企業・自治体が増えている。その一方で、ビッグデータの処理を行うためのデータセンター活用が注目を集めている。データセンターの最新動向と今後の可能性について、東京大学教授・日本データセンター協会の理事を務める江崎浩氏に聞いた。

東京大学大学院情報理工学系研究科教授
日本データセンター協会理事

江崎浩氏



広告

真の意味での サステナビリティ強化を

データセンター活用の最新動向は、以前までは、データセンターといえば、事業継続計画（BCP）だけを目的とする企業・自治体が多かった。しかし最近では、クラウドデータセンターという考え方が浸透しつつあります。本当に必要なデータだけ企業内のサーバーに置き、それ以外

外はデータセンターに置いて、ネットワークでシナジーを生むという発想です。また、ビッグデータをデータセンターに置き、処理を進める取り組みも広がっています。危機管理を固めながら、より高度なデータ活用へという真の意味でのサステナビリティ（持続性）の強化が進

安全性、コスト面が 大きなメリット

ユーザー企業にとって、データセンターを利用するメリットは、人件費をはじめとするコストの削減、安全性が高く、大きなメリットがあります。具体的には、サーバー管理要員を自前で雇う必要がありません。ハードウェアも定期的に更新されるため、低コストでの最新機器の使用が可能です。集約管理の効果を受けてきたため、我々はデータセンターを重要な社会インフラの一つと位置付けています。最近では、モジュール型データセンターが主流で、サー

バーが増えた分だけ冷却を行うため、省エネルギー効果も見込めます。技術革新に合わせて、段階的に設備投資を行える点でも合理的です。今後、データマネジメントのさらなる効率化が重要であり、設備面・運用面を統一的に最適化することが求められます。これが、データセンター・インフラストラクチャー・マネジメント（DCIM）という考え方は、CIMを企業ごとに行うのは困難ですし、非効率です。今後、データに関する設備はファブレス化して、自前ではなくデータセンターを利用する

日本の品質を グローバルスタンダードへ

国内のデータセンターは、電気料金の高さがネックで、国際的に利用料金が割高という声も聞かれています。海外よりも割高なことは否めませんが、高品質を考えると、合理的な価格差に収まっていると思えます。出日本大震災のときも、日本のデータセンターは平常通り

稼働しました。これは海外では考えられないことです。日本のデータセンターへの信頼性に対する海外の評価が一気に高まりました。今後、経済のグローバル化はますます進展するでしょう。日本企業が進出する先には、日本資本による日本品質のデータセンターがある一

2013 7.30 日経産業

